



## 平成25年12月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年1月16日

上場会社名 株式会社 ブロンコビリー  
 コード番号 3091 URL <http://www.bronco.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹市 克弘  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 古田 光浩  
 定時株主総会開催予定日 平成26年3月18日  
 有価証券報告書提出予定日 平成26年3月18日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東 名

TEL 052-775-8000

平成26年3月19日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年12月期の業績(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期	11,290	13.1	1,527	8.8	1,546	8.0	880	1.2
24年12月期	9,983	5.1	1,403	2.1	1,432	2.0	869	24.3

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
25年12月期	132.82	—	13.1	18.7	13.5
24年12月期	131.20	—	14.5	19.5	14.1

(参考) 持分法投資損益 25年12月期 ー百万円 24年12月期 ー百万円

(注)当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年12月期	8,755	7,085	80.9	1,068.73
24年12月期	7,763	6,372	82.1	961.15

(参考) 自己資本 25年12月期 7,085百万円 24年12月期 6,372百万円

(注)当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25年12月期	1,641	△875	△158	2,798
24年12月期	1,352	△600	△169	2,191

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産配当 率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
24年12月期	—	20.00	—	28.00	48.00	159	18.3	2.7
25年12月期	—	24.00	—	13.00	37.00	165	18.8	2.5
26年12月期(予想)	—	13.00	—	13.00	26.00		18.0	

(注)当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。平成24年12月期及び平成25年12月期第2四半期につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

### 3. 平成26年12月期の業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期(累計)	5,900	7.4	680	△6.0	685	△6.5	410	△5.7	61.84
通期	12,700	12.5	1,630	6.7	1,650	6.7	955	8.5	144.05

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期	6,630,000 株	24年12月期	6,630,000 株
② 期末自己株式数	25年12月期	216 株	24年12月期	106 株
③ 期中平均株式数	25年12月期	6,629,818 株	24年12月期	6,629,912 株

(注)当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 監査手続の実施状況に関する表示

・この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「経営成績に関する分析」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(4) 事業等のリスク	4
2. 企業集団の状況	7
3. 経営方針	7
(1) 会社の経営の基本方針	7
(2) 目標とする経営指標	7
(3) 中長期的な会社の経営戦略	7
(4) 会社の対処すべき課題	7
(5) その他、会社の経営上重要な事項	8
4. 財務諸表	9
(1) 貸借対照表	9
(2) 損益計算書	11
(3) 株主資本等変動計算書	13
(4) キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 財務諸表に関する注記事項	17
(継続企業の前提に関する注記)	17
(重要な会計方針)	17
(会計方針の変更)	17
(追加情報)	18
(貸借対照表関係)	18
(損益計算書関係)	18
(株主資本等変動計算書関係)	20
(キャッシュ・フロー計算書関係)	22
(リース取引関係)	22
(有価証券関係)	23
(デリバティブ取引関係)	24
(退職給付関係)	24
(ストック・オプション等関係)	24
(税効果会計関係)	24
(持分法損益等)	24
(企業結合等関係)	24
(資産除去債務関係)	25
(賃貸等不動産関係)	25
(セグメント情報等)	26
(関連当事者情報)	27
(1株当たり情報)	27
(重要な後発事象)	27
5. その他	28
(1) 役員の異動	28
(2) その他	29

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

当事業年度におけるわが国経済は、現政権による経済対策や日銀による金融政策への効果と期待から、景気回復の動きが見られ、高額品を中心として消費マインドの改善が見られるようになりました。しかしながら、円安の影響による輸入物価の上昇や来春の消費税増税による消費減退への懸念などにより、景気の先行きは不透明な状況にあります。

外食産業におきましては、価値を重視し高額でも許容する消費傾向が見られ、特に「ハレの日」にはお金を使う一方、日常の食事は価格重視の傾向と、二極化した競争の状況となっており、さらに中食を含めた熾烈な競争が深まっております。また円安と世界的な牛肉不足による原材料価格の高騰等があり、業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

このような厳しい環境の下、当社では「お客様の立場で顧客創造」の企業理念に基づき、ご家庭では味わうことができないおいしい料理を清潔で楽しい空間で味わっていただく「ご馳走レストラン」の実現に取り組んでまいりました。メニュー政策、販促、店舗改装による既存店の活性化と新規出店に取り組むと同時に、コスト削減に取り組む経営体質の強化に取り組んでまいりました。

メニュー政策では、絶えず商品を進化させるべく、商品開発会議を重ねた結果、通常年3回の定例メニュー改訂に加えて、タイムリーに新商品の導入や期間限定・店舗限定商品を提案することができました。当社の看板商品であるぶどう牛を使用し、4月には「熟成ぶどう牛炭火炙り焼きステーキ」を定番商品として追加、11月には店舗限定で希少価値の高い「熟成ぶどう牛ミスジステーキ」を商品化いたしました。また繁忙期のお盆期間や年末年始の期間限定で高付加価値メニューの「熟成ぶどう牛スペシャルコンビ」を提供してまいりました。

販促面では、お子様会員向けの「キッズクラブ」のDM企画により、お誕生日、クリスマス等のご家族の「ハレの日」需要でのご利用を促進することができ、ご家族団欒のお食事を三世代で楽しんでいただくことができました。ご好評いただいておりますスクラッチカードの他に「母の日」「父の日」のご家族のイベントにも対応した販促企画を実施いたしました。これらのメニュー政策と販促により、既存店前年比は、客数3.5%増、客単価1.4%増となり、売上高では5.0%増となりました。

コスト面では、本格的な関東出店に向け、商流及び物流の見直しを実施いたしました。地区別の物流体制を確立しながら、仕入先の見直しを行うことで配送費の低減と原価上昇の抑制に取り組みました。また自社工場ではハンバーグ成型を機械化し、店舗での仕込みのための人件費を削減した他、ステーキポーションカッターを導入して自社工場内での生産性向上にも取り組んでまいりました。さらに店舗では、大かまどに自動炊飯制御ユニットを導入し、品質の安定化とともに作業効率の改善にも取り組みました。

店舗面では、6店舗を出店いたしました他、既存店活性化として店舗改装を12店舗で実施いたしました。一方で2店舗を閉鎖し、期末店舗数は74店舗となりました。

以上の結果、売上高112億90百万円(前年同期比13.1%増)、営業利益15億27百万円(同8.8%増)、経常利益15億46百万円(同8.0%増)、当期純利益8億80百万円(同1.2%増)と4期連続の増収増益となり、過去最高の業績を達成することができました。

#### (次期の見通し)

今後の経済情勢につきましては、景気回復基調はあるものの、消費の局面では消費税増税、各種物価上昇等、経済活動に影響を及ぼす数多くの懸念材料があり、先行き不透明感は強く、厳しい状況が続くものと思われま

す。外食産業におきましても、原材料価格の高騰、外食企業間に中食を含めた熾烈な競争が深まる等、当社を取り巻く経営環境は今後も厳しい状況が続くものと想定しております。

このような環境の下「おいしい料理」「気持ちよいサービス」「楽しい店づくり」に徹底して取り組み、競合他社との差別化を図ってまいります。そして誕生日や記念日等の「ハレの日」にご利用いただける「ご馳走レストラン」の実現に継続して取り組んでまいります。

そのために当社のこだわりである「炭焼きステーキ」「旬のサラダバー」「大かまどごはん」を磨き上げることで、リピーター増と新たな出店地域での顧客作りに取り組んでまいります。また継続して既存商品をブラッシュアップし、期間限定・店舗限定商品の開発にも注力してまいります。さらに楽しい食事の時間をご家族でより楽しんでいただけますように、既存店舗改装を15店舗実施してまいります。

新規出店は、関東地区を中心に12店舗を予定しており、新たに関西地区への出店も決定しております。また出店と並行して「人材採用」を強化すると共に「人材育成」の強化として、現在の調理資格制度に加え接客資格制度も推進、各種マニュアルの整備に取り組み、今後の成長スピード加速に繋げてまいります。

次期の業績見通しは、売上高127億円(前年同期比12.5%増)、営業利益16億30百万円(同6.7%増)、経常利益16億50百万円(同6.7%増)、当期純利益9億55百万円(同8.5%増)を予定しております。

## (2) 財政状態に関する分析

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当事業年度末における資産合計は87億55百万円(前事業年度末77億63百万円)となり9億92百万円増加いたしました。その主な要因は、流動資産の現金及び預金が6億58百万円及び有形固定資産が3億36百万円増加したこと等によります。

## (負債)

当事業年度末における負債合計は16億70百万円(前事業年度末13億91百万円)となり2億79百万円増加いたしました。その主な要因は、買掛金が79百万円及び未払金が98百万円増加したこと等によります。

## (純資産)

当事業年度末における純資産の残高は70億85百万円(前事業年度末63億72百万円)となり7億13百万円増加いたしました。その主な要因は、当期純利益の計上と配当金の支払いにより繰越利益剰余金が7億10百万円増加したこと等によります。なお、自己資本比率は80.9%(前事業年度末82.1%)となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、27億98百万円(前事業年度末21億91百万円)となり6億7百万円増加いたしました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は16億41百万円となりました。これは主に、税引前当期純利益が14億73百万円、減価償却費が4億24百万円あった一方、法人税の支払いによる支出が6億4百万円あったこと等によります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は8億75百万円となりました。これは主に、新規出店、改装等に伴う有形固定資産の取得による支出が7億58百万円及び建設協力金の支払いによる支出が70百万円あったこと等によります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は1億58百万円となりました。これは主に、配当金の支払いによる支出が1億71百万円あったこと等によります。

## (参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成21年12月期	平成22年12月期	平成23年12月期	平成24年12月期	平成25年12月期
自己資本比率(%)	79.0	78.9	80.7	82.1	80.9
時価ベースの自己資本比率(%)	80.6	93.6	101.3	90.9	143.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	117.9	466.9	635.5	1,773.9	1,907.2

(注) 1 各指標はいずれも単体の財務数値を用いて、以下の計算式より算出しております。

自己資本比率：自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー/利払い

2 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数により算出しております。

3 営業キャッシュ・フロー及び利払いは、キャッシュ・フロー計算書に計上されている営業活動によるキャッシュ・フロー、支払利息を使用しております。

4 有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題と認識しており、企業体質の充実、強化を図るため、将来の事業展開に備え内部留保の充実に努めるとともに、業績を勘案しながら安定的な配当を(配当性向10%~20%を目標)行うことを基本方針としております。

上記方針に基づき当期は、期末配当金を1株につき13円とし、既に実施済みの中間配当金12円(当期の中間配当金は1株につき24円としておりますが、平成25年7月1日を効力発生日として普通株式1株を2株に分割したことに伴い12円で計算)と合わせて、年間配当金を25円とさせていただく予定であります。この結果、当事業年度の配当性向は18.8%となる予定であります。また、次期の年間配当金につきましては、引き続き上記方針に基づき実施する予定であり、1株につき26円(うち中間配当金13円)を予定しております。

なお、内部留保金の使途につきましては、新規出店による業容の拡大、改装による顧客増加及び人材育成を図るため、有効投資する予定であります。

(4) 事業等のリスク

当社の経営成績、財政状態及び投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

①外食業界の動向について

当社の属する外食業界は、既に成熟した業界であり、市場規模の拡大は見込めない傾向にあります。併せて、中食業界の拡大や、新規参入が容易であること等により、競争が激化しており、依然として厳しい状況が継続しております。また、外食業界は景気動向の影響を受けやすく、景気動向によっては業績が大きく左右されることが考えられます。

当社といたしましては、メニュー改訂、使用する食材へのこだわり、オープンキッチンやテレビモニターの導入による見せる店づくり等により他社との差別化を図る方針であります。しかしながら、当社と同様のコンセプトを持つ競合他社の増加等により競争が激化した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

②商品表示について

外食業界におきましては、一部企業の産地偽装や賞味期限の改ざんが発生する等、食の安全性や信頼性に消費者の信用を失う事件が発生しております。当社は、事業規模の大きな信頼ある納入業者から仕入を行い、適正な商品表示に努めております。しかしながら表示内容に重大な誤り等が発生した場合、社会的信用の低下により来客数が減少し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

③BSE問題について

当社の主要メニューであるステーキ・ハンバーグには牛肉が使用されておりますが、平成13年9月にBSE(牛海綿状脳症)に感染した牛が国内で初めて発見され、消費者の牛肉に対する不安感の増大から、当社を含め牛肉を食材として使用する外食業界は業績に多大な影響を受けました。また、平成15年12月には米国内においてもBSEに感染した牛が発見され、一時輸入停止措置が講じられましたが、平成18年7月には輸入が再開されました。

当社は管理が行き届いた豪州産牛肉を主に使用しており、これまでのところ、同国内においてBSEに感染した牛は発見されておられません。しかしながら、今後、豪州においてBSE問題が発生した場合には、牛肉の調達ができないことによる営業休止や調達コストの増加等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

④単一の営業形態について

当社は現在、ステーキハウス「ブロンコビリー」のみを運営する単一業態であり、今後も同業態で規模を拡大していく方針であります。そのため、当社が提供する商品や当社が展開する店舗等のコンセプトが消費者の嗜好に合わなくなった場合には、来客数が減少し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、BSE、食肉商社の偽装等、牛肉に起因した問題が発生した場合には、複数業態を展開している外食事業者と比較して、業績に多大な影響を受ける可能性があります。そのため、当社のコンセプトが消費者の支持を得られなくなった場合や、特定の食材に起因した問題が発生した場合には、来客数が減少し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑤原材料価格の高騰について

当社は豪州産牛肉を主に使用しており、国内の商社を通してメニューに使用する食材(部位)の必要量を確保しておりますが、豪州における干ばつ・洪水等の天候不順、為替相場的大幅な変動、セーフガードの発動による関税引き上げ等が発生した場合や、米国等でBSE等が発生し、牛肉輸入の代替先として豪州産牛肉が選定された場合は、同牛肉の仕入価格が上昇する可能性があります。その場合には仕入れコストが増加し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、その他の食材についても、仕入価格の高騰、数量の確保が困難に陥った場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑥店舗展開について

(i)新規出店について

当社は、愛知、岐阜、三重、静岡、東京、埼玉、神奈川、千葉の1都7県下に74店舗を展開しており、出店基準に基づき、平成25年12月期は、6店舗の出店をいたしました。今後も成長を継続させていくために東海地方、関東地方並びに関西地方へ出店していく方針ですが、当社の出店基準に見合う物件の確保が容易に出来ない場合や、出店後に計画どおり収益が確保できない場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(ii)差入保証金について

当社は、新規出店に際して、原則として自社物件の取得は行わず、賃貸物件による新規出店を基本方針としております。物件の賃借に当たっては、賃貸人に対して、差入保証金を差し入れた上で土地、建物を賃借しております。

当社は、出店時に顧問弁護士の指導を受けて賃貸人と契約書を締結しており、出店後においては、賃貸人との良好な関係を保持してまいりましたので、現在までのところ閉店等に伴い差入保証金が回収できなかった事例はありません。

しかしながら、今後、賃借物件の地主・家主の経済的破綻等により差入保証金等の一部又は全額の回収が不能となることがある他、店舗営業の継続に支障等が生じる可能性があります。また、当社の都合で賃貸借契約を中途解約する場合には、契約上の返済条件の規定から差入保証金等を放棄せざるを得なくなる場合があり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(iii)店舗に係る損失について

当社は退店基準に基づき、業績の回復が困難となった店舗、賃貸借契約期間が満了し契約更新が困難な店舗については、店舗の退店を行っております。店舗の退店が発生した場合には、賃貸物件の違約金の発生や、転貸費用及び固定資産の除却損が発生いたします。

また今後、商圈人口、交通量、競合店状況の変化によって店舗の業績が悪化した場合や、店舗閉鎖に伴い遊休資産が発生した場合には、減損損失を計上する可能性があり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑦店舗運営費の増加について

(i)人件費について

当社は、従業員のうちパートタイマー(短時間労働者)が多くを占めており、当社の出店エリアにおいて同業他社等の増加により労働需給が逼迫している地域があります。そのため、当社は時間給を引き上げることで、パートタイマーを確保せざるを得ない地域があり、人件費の増加要因となっております。

当社は、既存のパートタイマーの業務処理能力を高めるために必要な教育を行い、定着率を高めるため労働環境の改善に引き続き取り組んでまいりますが、人員の確保ができなくなった場合、時間給の引き上げが必要となり、給料や保険料の負担の増加等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(ii)販売促進費について

当社は、お客様の来店頻度を高めるために、来店されたお客様に対するドリンク無料券や金券等を配付したり、新聞の折込広告等によるサービス券の配布等の販売促進策を実施しております。これらの販売促進券を活用した販売促進策は、来店頻度を向上させるための有効な手段であると考えていることから、今後も継続的に実施していく方針であります。当社といたしましては、お客様の販売促進券の回収時期が集中しないよう使用期限を設定している他、お客様の販売促進券の使用に対して発生する費用に備え、過去の回収実績に基づき、販売促進引当金を設定しておりますが、当社が想定した以上に販売促進券の回収率が上昇した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑧食肉の仕入について

当社は、ステーキ・ハンバーグの主原料である牛肉の仕入を主にプリマハム株式会社から行っており、肉類の仕入額のうち同社からの仕入は、平成24年12月期:42.2%(仕入総額の14.2%)、平成25年12月期:35.1%(仕入総額の11.9%)となっております。

現在のところ、同社との関係は良好であります。何らかの要因により取引が継続できない事態が生じた場合には、当社の仕様にあった牛肉の仕入を行うことができなくなる可能性があり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑨特定地域に対する依存度について

(i)災害リスクについて

当社は、主として東海地区及び関東地区において、事業活動を行っております。このうち東海地区は、今後その発生が予測されている東海・東南海地震の防災強化地域内に位置しております。将来、これらの地域で地震等の大規模災害が発生した際には、営業店舗及びファクトリー(加工工場)の損傷等による営業日数・営業時間の減少により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(ii)経済的ダメージによる消費環境の悪化について

地震等の災害の発生のみならず、何らかの理由により地域経済の混乱、低迷による雇用環境の悪化及び個人所得の減少により来客数が著しく減少する可能性があります、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑩法的規制等について

(i)食品衛生法について

当社のファクトリー(加工工場)に関する主な法規制としては、「食品衛生法」があります。工場で製造しているハンバーグやステーキソース等に関して十分な品質管理等を実施しており、併せて万一の場合に備えて製造物責任賠償に係る保険に加入しております。

しかし仮に、食品事故の発生等により、食品営業許可証の取消や営業停止処分等を含む行政指導を受けた場合、あるいは保険の補償範囲を超える多額の損害賠償金が発生した場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(ii)食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)について

平成13年5月1日に施行された「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)」により、年間100トン以上の食品廃棄物を排出する食品関連事業者は、食品廃棄物の発生量の抑制、減量及び再生利用を通じて、食品循環資源の再生利用等の実施率を向上させることが義務付けられております。

当社は、年間100トン以上の食品廃棄物を排出する食品関連事業者に該当しており、現在食品廃棄物の内、廃油の回収、特定店舗での生ゴミの回収による生ゴミの堆肥化を進めております。

しかしながら、同法の排出量削減の基準等が引き上げられた場合、新たな対応に伴う追加コスト等が発生し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(iii)短時間労働者(パートタイマー等)について

当社は、従業員のうち短時間労働者が多くを占めております。今後、厚生年金、健康保険の適用基準が拡大あるいはパートタイム労働法の改正等による保険料負担の増加等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(iv)法令遵守について

当社は、行動憲章の制定、コンプライアンス委員会の設置等、法令遵守体制の整備と研修を行っております。

しかしながら、役職員等に法令違反が発生した場合には、社会的信用の低下により来客数が減少し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑪人材の確保と育成について

当社は、新規の店舗展開と既存店の店舗運営及び内部管理体制を増強するために、優秀な人材を確保していくことが必要であり、求人・採用活動のレベルアップ、採用後の従業員に対する研修等を含めた従業員教育の充実、自己啓発の推奨等で、人材育成に取り組んでおります。

しかしながら、人材の確保及び育成が当社の計画通りに進まない場合は、予定している店舗展開が未達成となり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑫個人情報の管理について

当社では、店舗で行っている販促サービスとしての顧客情報と、お客様からのメールや電話等で取得した情報及び社員、パート・アルバイト等の個人情報を取り扱っております。当該個人情報の管理は、取得時は利用目的をあらかじめ説明し、取得後にはデータの漏洩、滅失又は毀損が発生しないように万全を期しております。

しかしながら、何らかの理由により個人情報が漏洩した場合には、損害賠償請求の発生や社会的信用の低下等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑬感染症(新型インフルエンザ等)の流行について

新型インフルエンザ等の感染症の発生により、消費者が外出を控えること等による来客数の減少、また、従業員への波及により人員確保が出来ない場合は、店舗運営に支障をきたし営業が困難となることから、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。



## 2. 企業集団の状況

最近の有価証券報告書(平成25年3月21日提出)における「事業の内容」及び「関係会社の状況」から重要な変更がないため開示を省略しております。

## 3. 経営方針

### (1) 会社の経営の基本方針

企業理念の具現化を目指し、一人ひとりが企業理念の理解を深めるため、日々企業理念について考え、具体的に行動することを基本方針とします。

#### ①考え方の共有

企業理念を通じて従業員全員が高いレベルの目標を持ち、企業理念の実現という同じ方向に向かって取り組んでまいります。

#### ②極大の利益を追求

お客様に再来店していただくことやブロンコビリーの付加価値の高い商品を提供することで売上を極大にし、食材や電気・ガス・水道等の無駄を省き、経費を極小にすることで極大の利益を出し、高利益体質の会社を築いてまいります。

#### ③人材の育成

研修や社内外のセミナーを通して、働く従業員の能力や人間性を磨き、会社の発展とともに個人が成長できるような人材の育成を行ってまいります。

#### ④財務体質の強化

売上高経常利益率を高め、財務内容を向上させ、ゆるぎない企業基盤の構築を目指します。

#### ⑤営業力の強化

お客様に安全・安心なおいしい料理と気持ちよいサービスを提供し、お客様の満足を実現し続けることにより、顧客創造につなげていきます。

#### ⑥楽しく快適な店づくりに挑戦

お客様に常に期待を抱かせ、その期待に応えられる楽しい店づくりに取り組んでまいります。

(i)オープンキッチンで、料理を作っているところが直接見えるなど、お客様が五感で楽しめる空間を創造してまいります。

(ii)空調設備や外装の定期的なメンテナンスを行い、お客様に心地よいひとときを満喫していただけるように維持管理を徹底いたします。

#### ⑦収益が見込める出店

極大の売上高と高い売上高経常利益率に挑戦するために、当社が定めた出店基準の充足が見込める出店を行っていき、財務体質を強化してまいります。

### (2) 目標とする経営指標

当社は、売上を最大に伸ばし、経費を最小に抑えることで最大の利益を確保するという考え方にに基づき、収益性を明確に表す売上高経常利益率を経営指標としております。

### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、いかなる経営環境下においても、全従業員が丸となって継続的成長を図り、企業価値の向上に努め、日本一のステーキ専門店を目指してまいります。

当面は単一業態で規模の拡大に取り組み、新規出店を加速してまいります。

### (4) 会社の対処すべき課題

当社の企業理念に基づき、私たちの使命を顧客創造として、ブロンコビリーならではのQ(クオリティー)、S(サービス)、C(クレンリネス)を常に進化、改善させていくことで、お客様の期待に応え続けていくことを実現してまいります。

当社は、高い収益性を維持し企業価値を向上させていくために、以下の課題に取り組んでまいります。

#### ①高収益体質の構築

お値打ちな原材料の一括購入や製造工程の見直しなどによる原価率の低減に努めるとともに、当社が導入している経営管理法である「アメーバ経営」のより一層の浸透を図り、各部門別採算意識の向上や従業員一人ひとりの経営者意識の向上に注力しております。

また、客単価を上げることで人時売上高(売上高を労働時間で割った指標)を上げるだけでなく、経費に占める固定費の比率の低減を目指しております。

②新規出店

当社は、更地での出店のみならず、他社が撤退した物件を取得し居抜きでの新規出店にも積極的に取り組んでおります。また、新店出店の際には、賃貸料等のコストパフォーマンスを考え、従来基準よりも狭小な土地であっても出店できるようにピロティ形式の店舗開発にも取り組んでおります。今後も、店舗別営業利益率の上位に入ると見込まれる物件を厳選し、新規出店をする予定であります。

③自社工場の活用

当社は自社工場を持つ強みを最大限に活かし、ステーキ・ハンバーグの原価の低減に努めてまいりました。自社工場においては、ステーキ・ハンバーグにとどまらず、ドレッシングやソース等、さらなる商品の内製化に取り組み、安全・安心かつお値打ちな商品の開発に取り組んでおります。

④既存店舗の活性化

年3回のグランドメニューの改訂及び年5回のサラダバーメニュー改訂を行っております。また、既存店舗の改装を行い、入口への肉のショーケースを配置、店内にTVモニターを設置しステーキの焼成状況を流す等、よりお客様に喜んでいただける店作りに取り組んでおります。さらに、スクラッチカード、キッズクラブ等を実施し、既存店舗の活性化に努めてまいります。

⑤人材育成

年頭会議、KKI(経営改革委員会)および店長会議等において、社長自らが「企業理念」や「経営方針」等を講話し、従業員の意識向上に努めております。また、技術面では、キッチンにおいて資格制度を導入し、よりスキルのある従業員の育成に努めるとともに、調理勉強会や店長候補勉強会によるマネジメント技術の向上等、社員教育を強化しております。

(5) その他、会社の経営上重要な事項

該当事項はありません。

## 4. 財務諸表

## (1) 貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,976,581	3,635,449
売掛金	68,333	84,072
商品及び製品	42,387	52,931
原材料及び貯蔵品	191,715	132,678
前払費用	89,663	96,168
繰延税金資産	59,770	57,114
その他	68,074	9,201
流動資産合計	3,496,525	4,067,617
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,095,761	5,520,764
減価償却累計額	△2,663,764	△2,904,750
建物(純額)	※ 2,431,997	※ 2,616,013
構築物	732,821	791,948
減価償却累計額	△507,642	△540,745
構築物(純額)	225,178	251,203
機械及び装置	116,130	170,544
減価償却累計額	△85,574	△96,765
機械及び装置(純額)	30,555	73,778
車両運搬具	9,997	9,997
減価償却累計額	△9,360	△9,900
車両運搬具(純額)	636	96
工具、器具及び備品	1,227,330	1,369,513
減価償却累計額	△930,304	△1,039,252
工具、器具及び備品(純額)	297,025	330,260
土地	※ 276,207	※ 276,207
建設仮勘定	44,983	95,980
有形固定資産合計	3,306,586	3,643,541
無形固定資産		
借地権	64,415	63,968
ソフトウェア	10,305	10,316
その他	11,550	13,225
無形固定資産合計	86,271	87,511
投資その他の資産		
投資有価証券	138,854	145,593
出資金	70	70
長期前払費用	21,037	16,996
差入保証金	576,608	659,096
繰延税金資産	106,927	112,670
その他	30,696	22,648
投資その他の資産合計	874,194	957,076
固定資産合計	4,267,052	4,688,128
資産合計	7,763,577	8,755,746

(単位:千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	204,403	284,002
短期借入金	※ 96,552	※ 110,878
リース債務	-	1,500
未払金	399,605	498,430
未払費用	33,531	54,349
未払法人税等	323,670	313,542
未払消費税等	20,602	43,578
預り金	46,005	66,380
前受収益	2,366	3,032
賞与引当金	16,423	21,499
販売促進引当金	32,877	24,725
資産除去債務	-	2,500
流動負債合計	1,176,038	1,424,418
固定負債		
リース債務	-	18,500
資産除去債務	196,042	207,560
その他	19,147	19,812
固定負債合計	215,190	245,872
負債合計	1,391,228	1,670,291
純資産の部		
株主資本		
資本金	803,337	803,337
資本剰余金		
資本準備金	713,337	713,337
資本剰余金合計	713,337	713,337
利益剰余金		
利益準備金	58,887	58,887
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	20,452	18,162
別途積立金	1,000,000	1,000,000
繰越利益剰余金	3,770,266	4,480,760
利益剰余金合計	4,849,606	5,557,810
自己株式	△112	△325
株主資本合計	6,366,168	7,074,159
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,180	11,295
評価・換算差額等合計	6,180	11,295
純資産合計	6,372,349	7,085,454
負債純資産合計	7,763,577	8,755,746

## (2) 損益計算書

(単位:千円)

	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	9,983,899	11,290,337
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	38,821	42,387
当期製品製造原価	1,217,925	1,561,884
当期商品仕入高	1,477,259	1,642,926
合計	2,734,006	3,247,199
他勘定振替高	※1 42,737	※1 67,260
商品及び製品期末たな卸高	42,387	52,931
売上原価合計	2,648,881	3,127,006
売上総利益	7,335,017	8,163,330
販売費及び一般管理費	※2 5,931,826	※2 6,636,308
営業利益	1,403,191	1,527,021
営業外収益		
受取利息	1,702	1,876
有価証券利息	267	265
受取配当金	2,349	2,482
受取賃貸料	22,460	22,530
受取保険金	9,449	8,335
保険返戻金	8,437	-
協賛金収入	12,591	13,378
その他	5,896	4,519
営業外収益合計	63,154	53,386
営業外費用		
支払利息	762	860
賃貸費用	21,972	23,693
盗難損失	4,939	-
その他	5,886	9,036
営業外費用合計	33,560	33,590
経常利益	1,432,785	1,546,818
特別利益		
固定資産売却益	※3 1,000	※3 2,094
災害保険金収入	※4 89,101	-
投資有価証券売却益	-	7,228
特別利益合計	90,101	9,323
特別損失		
減損損失	※5 39,180	※5 26,208
固定資産除売却損	※6 4,743	※6 3,859
災害による損失	35,171	-
店舗閉鎖損失	-	52,515
特別損失合計	79,095	82,583
税引前当期純利益	1,443,791	1,473,558
法人税、住民税及び事業税	553,844	598,858
法人税等調整額	20,125	△5,879
法人税等合計	573,970	592,978
当期純利益	869,820	880,579

## 製造原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)		当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 材料費	※	998,338	82.0	1,292,021	82.7
II 労務費		126,101	10.3	165,473	10.6
III 経費		93,485	7.7	104,390	6.7
当期総製造費用		1,217,925	100.0	1,561,884	100.0
当期製品製造原価		1,217,925		1,561,884	

## 原価計算の方法

当社の原価計算は、総合原価計算によっており、その計算の一部に予定原価を採用し、期末においてこれによる差額を調整のうえ、実際原価に修正しております。

(注) ※ 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費(千円)	24,799	26,601
消耗品費(千円)	19,098	24,348
水道光熱費(千円)	13,016	16,385

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					固定資産圧 縮積立金	別途積立金	繰越利益剰 余金	
当期首残高	803,337	713,337	713,337	58,887	-	1,000,000	3,053,497	4,112,384
当期変動額								
固定資産圧縮積立金の積立					20,452		△20,452	-
固定資産圧縮積立金の取崩					-		-	-
剰余金の配当							△132,598	△132,598
当期純利益							869,820	869,820
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	20,452	-	716,769	737,221
当期末残高	803,337	713,337	713,337	58,887	20,452	1,000,000	3,770,266	4,849,606

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△51	5,629,008	△3,948	△3,948	5,625,059
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の積立		-			-
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
剰余金の配当		△132,598			△132,598
当期純利益		869,820			869,820
自己株式の取得	△61	△61			△61
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			10,128	10,128	10,128
当期変動額合計	△61	737,160	10,128	10,128	747,289
当期末残高	△112	6,366,168	6,180	6,180	6,372,349

## (株)ブロンコビリー(3091) 平成25年12月期決算短信(非連結)

当事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	803,337	713,337	713,337	58,887	20,452	1,000,000	3,770,266	4,849,606
当期変動額								
固定資産圧縮積立金の積立					-		-	-
固定資産圧縮積立金の取崩					△2,289		2,289	-
剰余金の配当							△172,375	△172,375
当期純利益							880,579	880,579
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	△2,289	-	710,493	708,203
当期末残高	803,337	713,337	713,337	58,887	18,162	1,000,000	4,480,760	5,557,810

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△112	6,366,168	6,180	6,180	6,372,349
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の積立		-			-
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
剰余金の配当		△172,375			△172,375
当期純利益		880,579			880,579
自己株式の取得	△213	△213			△213
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			5,115	5,115	5,115
当期変動額合計	△213	707,990	5,115	5,115	713,105
当期末残高	△325	7,074,159	11,295	11,295	7,085,454



## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	1,443,791	1,473,558
減価償却費	415,521	424,250
減損損失	39,180	26,208
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,917	5,076
販売促進引当金の増減額(△は減少)	8,120	△8,152
受取利息及び受取配当金	△4,319	△4,624
支払利息	762	860
保険戻戻金	△8,437	-
災害保険金収入	△89,101	-
固定資産除売却損益(△は益)	3,743	1,764
災害損失	35,171	-
店舗閉鎖損失	-	52,515
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△7,228
たな卸資産の増減額(△は増加)	△63,003	48,492
売上債権の増減額(△は増加)	△11,020	△15,739
長期前払費用の増減額(△は増加)	6,138	4,040
仕入債務の増減額(△は減少)	△27,721	79,599
未払金の増減額(△は減少)	15,979	79,174
未払消費税等の増減額(△は減少)	△118	22,976
その他	△28,251	59,154
小計	1,734,518	2,241,927
利息及び配当金の受取額	4,319	4,624
利息の支払額	△766	△857
法人税等の支払額	△475,048	△604,375
災害保険金の受取額	89,101	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,352,123	1,641,318
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△39,804	△39,769
投資有価証券の売却による収入	-	8,395
有形固定資産の取得による支出	△541,643	△758,966
有形固定資産の売却による収入	-	2,094
有形固定資産の除却による支出	△9,330	△2,875
無形固定資産の取得による支出	△13,613	△24,901
差入保証金の差入による支出	△29,983	△46,746
差入保証金の回収による収入	3,000	5,000
預り保証金の返還による支出	-	△2,175
預り保証金の受入による収入	5,820	3,000
建設協力金の支払による支出	△3,000	△70,500
建設協力金の回収による収入	33,178	24,758
保険積立金の積立による支出	△5,273	△3,651
保険積立金の解約による収入	-	31,132
投資活動によるキャッシュ・フロー	△600,650	△875,204

(単位:千円)

	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△26,084	14,326
長期借入金の返済による支出	△10,909	-
リース債務の返済による支出	-	△1,000
自己株式の取得による支出	△61	△213
配当金の支払額	△132,475	△171,828
財務活動によるキャッシュ・フロー	△169,529	△158,715
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	581,943	607,398
現金及び現金同等物の期首残高	1,609,197	2,191,140
現金及び現金同等物の期末残高	※ 2,191,140	※ 2,798,539

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品・製品・原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 6～50年

構築物 5～20年

機械及び装置 6～15年

車両運搬具 6年

工具、器具及び備品 3～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、事業用借地権については、契約年数を基準とした定額法、また、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 長期前払費用

均等償却によっております。

(4) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員の賞与支払に備えるため、賞与の支給見込額のうち当期負担分を計上しております。

(2) 販売促進引当金

顧客に交付した販売促進券の将来の使用による販売促進費の計上に備えるため、販売促進券の未使用額に対して過去の回収実績率を乗じて当期負担分を計上しております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税及び地方消費税の処理方法

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

※ 担保資産及びこれに対する債務  
担保資産

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
建物	23,839千円	22,669千円
土地	143,008	143,008
合計	166,848	165,678

担保に対する債務

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
短期借入金	25,680千円	26,000千円

(損益計算書関係)

※1 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
販売費及び一般管理費	42,737千円	67,260千円

※2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度13%、当事業年度13%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度87%、当事業年度87%であります。

販売費及び一般管理費のうちで主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
販売促進費	686,191千円	823,287千円
販売促進引当金繰入額	32,877	24,725
給与手当	898,048	1,029,582
賞与引当金繰入額	16,136	21,017
雑給	1,501,294	1,678,432
水道光熱費	376,169	427,762
減価償却費	374,276	383,892
賃借料	705,972	762,597

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
建物	1,000千円	2,000千円
工具、器具及び備品	—	94
合計	1,000	2,094

※4 災害保険金収入の内容  
火災保険金等の受取りであります。

※5 減損損失の内容は、次のとおりであります。  
以下の資産グループに基づき減損損失を計上しております。  
前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

場所	用途	種類	金額(千円)
三重県	直営店舗(当社1物件)	建物等	35,532
岐阜県	直営店舗(当社1物件)	建物等	3,648

資産のグルーピングは、直営店舗については継続的な収支の把握を行っていることから各店舗毎をグルーピングの最小単位としております。

収益性が著しく低下した店舗について資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額39,180千円(建物33,346千円、構築物3,578千円、工具、器具及び備品2,024千円、借地権231千円)を減損損失として特別損失に計上しております。

回収可能価額は、使用価値によっております。なお、割引率については使用見込期間が短いため考慮しておりません。

当事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

場所	用途	種類	金額(千円)
愛知県	直営店舗(当社1物件)	建物等	26,208

資産のグルーピングは、直営店舗については継続的な収支の把握を行っていることから各店舗毎をグルーピングの最小単位としております。

収益性が著しく低下した店舗について資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額26,208千円(建物21,066千円、構築物3,220千円、工具、器具及び備品1,921千円)を減損損失として特別損失に計上しております。

回収可能価額は、使用価値によっております。なお、割引率については使用見込期間が短いため考慮しておりません。

※6 固定資産除売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
機械及び装置	—千円	984千円
工具、器具及び備品	658	—
撤去費用等	4,085	2,875
合計	4,743	3,859

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	3,315,000	—	—	3,315,000
合計	3,315,000	—	—	3,315,000
自己株式				
普通株式(注)	24	29	—	53
合計	24	29	—	53

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年3月22日 定時株主総会	普通株式	66,299	20	平成23年12月31日	平成24年3月23日
平成24年7月17日 取締役会	普通株式	66,298	20	平成24年6月30日	平成24年9月6日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年1月17日 取締役会	普通株式	利益 剰余金	92,818	28	平成24年12月31日	平成25年3月22日

(注) 普通配当20円 記念配当8円

当事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式(注)1	3,315,000	3,315,000	—	6,630,000
合計	3,315,000	3,315,000	—	6,630,000
自己株式				
普通株式(注)2	53	163	—	216
合計	53	163	—	216

(注)1 株式分割(1:2)によるものであります。

2 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加55株と、株式分割(1:2)による増加108株であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年1月17日 取締役会 (注)1、2	普通株式	92,818	28	平成24年12月31日	平成25年3月22日
平成25年7月16日 取締役会 (注)2	普通株式	79,557	24	平成25年6月30日	平成25年9月5日

(注)1 普通配当20円 記念配当8円

2 平成25年7月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年1月16日 取締役会	普通株式	利益 剰余金	86,187	13	平成25年12月31日	平成26年3月19日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
現金及び預金	2,976,581千円	3,635,449千円
預入期間3か月超の定期預金	△785,440	△836,910
現金及び現金同等物	2,191,140	2,798,539

(リース取引関係)

(借主側)

## 1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

## ① リース資産の内容

有形固定資産

店舗建物であります。

## ② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

## 2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
1年内	332,041	392,937
1年超	2,825,616	3,925,159
合計	3,157,657	4,318,096



(有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前事業年度(平成24年12月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	83,911	60,859	23,052
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	83,911	60,859	23,052
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	30,641	42,107	△11,466
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	9,300	11,334	△2,033
	小計	39,942	53,442	△13,500
合計		123,854	114,301	9,552

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額15,000千円)については、市場価格がなく、時価を把握する事が困難と認められることから、「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成25年12月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	111,125	86,490	24,635
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	111,125	86,490	24,635
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	10,563	15,310	△4,747
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	8,905	11,334	△2,429
	小計	19,468	26,644	△7,176
合計		130,593	113,134	17,458

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額15,000千円)については、市場価格がなく、時価を把握する事が困難と認められることから、「その他有価証券」には含めておりません。

## 2. 売却したその他有価証券

前事業年度(平成24年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(平成25年12月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	8,395	7,228	—
合計	8,395	7,228	—

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

当社は、退職金制度を採用しておりませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	24,127千円	25,360千円
減損損失	34,532	29,424
借地権償却	47,382	49,656
減価償却	7,161	7,887
投資有価証券評価損	2,019	2,019
賞与引当金	6,191	8,105
販売促進引当金	12,394	9,321
資産除去債務	69,203	74,151
その他	4,390	7,556
繰延税金資産合計	207,401	213,482
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する資産	26,173	27,625
その他有価証券評価差額金	3,372	6,162
固定資産圧縮積立金	11,158	9,909
繰延税金負債合計	40,704	43,697
繰延税金資産の純額	166,697	169,785

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
法定実効税率	—%	37.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	—	0.3
住民税均等割	—	2.2
その他	—	△0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	40.2

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

## (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

## イ 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸借契約及び定期借地権契約に伴う原状回復義務等であります。

## ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から6～31年と見積り、割引率は0.46%～2.12%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

## ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
期首残高	197,994千円	196,042千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	10,624	11,960
時の経過による調整額	3,447	3,425
資産除去債務の履行による減少額	△16,023	△1,368
期末残高	196,042	210,060

## (賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

a. セグメント情報

前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)及び当事業年度(自 平成25年1月1日 至平成25年12月31日)

当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

b. 関連情報

前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

c. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

d. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

e. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

前事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

## (関連当事者情報)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
1株当たり純資産額	961.15円	1,068.73円
1株当たり当期純利益	131.20円	132.82円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当社は、平成25年7月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当事業年度 (平成25年12月31日)
純資産の部の合計額(千円)	6,372,349	7,085,454
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	6,372,349	7,085,454
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末 の普通株式の数(株)	6,629,894	6,629,784

4 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(千円)	869,820	880,579
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	869,820	880,579
期中平均株式数(株)	6,629,912	6,629,818

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 5. その他

## (1) 役員の異動

開示内容が定まった時点で開示いたします。

## (2) その他

## ①生産実績

前事業年度及び当事業年度における生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)		当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	
	生産高(千円)	前年同期比(%)	生産高(千円)	前年同期比(%)
ステーキ	660,323	102.5	853,973	129.3
ハンバーグ	354,995	108.7	468,999	132.1
ステーキソース	109,362	117.0	122,735	112.2
その他	93,244	131.6	116,177	124.6
合計	1,217,925	107.3	1,561,884	128.2

- (注) 1 上記は、ファクトリーにおける生産実績であります。  
 2 金額は、製造原価によって表示しております。  
 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 4 その他は、デザート等であります。  
 5 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ②仕入実績

前事業年度及び当事業年度における仕入実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)		当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	
	仕入高(千円)	前年同期比(%)	仕入高(千円)	前年同期比(%)
肉類	852,649	114.2	973,343	114.2
野菜類	366,483	110.2	390,261	106.5
米・パン	310,269	111.8	328,376	105.8
ドリンク類	206,504	98.7	244,204	118.3
その他	796,363	97.1	928,952	116.6
合計	2,532,271	106.1	2,865,139	113.1

- (注) 1 金額は、仕入れ価格によっております。  
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ③販売実績

前事業年度及び当事業年度における販売実績を地域別に示すと、次のとおりであります。

なお当社は一般顧客を対象とした店舗販売ですので、特定の販売先はありません。

地域別	前事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)		当事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)	販売高(千円)	前年同期比(%)
愛知県	5,370,365	99.0	5,805,109	108.1
岐阜県	1,178,574	95.1	1,243,333	105.5
三重県	664,780	98.2	654,496	98.5
静岡県	1,006,817	126.6	1,166,530	115.9
東京都	774,573	114.2	867,038	111.9
埼玉県	730,503	146.2	838,408	114.8
神奈川県	258,284	136.9	512,194	198.3
千葉県	—	—	203,224	—
合計	9,983,899	105.1	11,290,337	113.1

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。